

学校名) ) 年 名前)

この記事は、68年前の「神戸空襲」について書かれています。大事だと思つて「ろ」に線を引ながら読み、感想を書きましよう。

# 慰霊碑あす完成 1752人の名刻む

## 神戸空襲の悲劇 後世に

終戦から68年目の15日、神戸市中区の大倉山公園に、神戸空襲の犠牲者名を刻んだ慰霊碑が完成する。「1752人」と一人一人の名前を残し、神戸にも戦争の悲劇があつたことを伝えたい。そんな思いで体験者や遺族が活動を始めて42年。やっと、願いがかなう。(木村信行、上田勇紀)

### 遺族ら42年の活動実る

大倉山公園の北にある広場。御影石の表面に「神戸空襲を忘れない」との平和の碑と書かれ、裏面に1752人の名前が刻まれた。8千人以上される犠牲者の4分の1に届かないが、集めるのに長い時間がかかった。「みんなの思いが集まった。神戸空襲を記録する会代表の中田政子さん(87) 同市長田区はほつとした表情で話す。同会が発足したのは1971年。初期の活動を陰で支えたのが母の君子さんだつた。君子さんは45年3月17日、1歳の長女弘子ちゃんを背負って焼夷弾の下を逃げ感つた。弘子ちゃんは爆風に吹き飛ばされ、身重のは寺を訪ねて過去帳を調子さんは生き残った。半べ、慰霊祭で遺族らに協力年々、中田さんがまわった。を呼び掛けた。大阪、淡路震災の後、願いが実現近づいて2代目の代表となった。87 た3年前、神戸市が「碑に無念をいつの間にか受け 名前を刻むと墓になり、母さん、そう言つてほめて継いでいた。わしくない」と難色を示した。途方無きが「刻路神戸空襲でなくなった人。碑は市民の共有財産」としていい。同会メンバー 粘り強く説得した。昨年、前10時から40分程度。慰霊碑の除幕式は15日午



神戸・中央区大倉山公園



「やっとここまで来た」。万感の思いで慰霊碑の前に立つ中田政子さん＝神戸市中央区楠町7、大倉山公園(撮影・峰大二郎)

NIエワークシート／小学高学年、高校・社会、道徳

### 1945年3月17日—恐怖の記憶 今も



1945年3月17日未明、神戸市須磨区の辻英子さん(80)は降り注ぐ焼夷弾の下にいた。当時12歳。8歳の弟の手を引き、毛布をかぶって逃げた。同市兵庫区の和田岬の河口は、本を求めた人であつていた。生後3カ月の弟を背負った母、5歳の弟を抱えた姉、父ら家族8人を身を寄せた。明け方近く、突然の爆風。防空警報が燃え、服に引火した。「おっちゃん助けて。近くの男性に駆け寄った。来んてええ。男性投げ飛ばされ、気絶していた父の正体は見えなかった。目を覚ました父が手で必死にたたいた。火を消す途中、赤子をおぶった女性が火だるまになって助けを求めてきた。どうするかもできなかった。橋は遺体であふれ、母と弟らしき姿も見かけたが、一度離れた後に戻ると消えていた。結局遺骨も見つからなかった。今月、仏壇を整理中はずっと捜していた戦死証明書類が見つかった。母や弟の碑の完成を喜んでると思つた。「私が死んでも碑は残る。それがうれしい。孫やひ孫に、毎年訪れるまう伝えたい」。母の名は輪田ルミ子。弟は勝修治、忠廣。碑の中で寄り添つてる。

数日前に見つかった証明書類を手を語る辻英子さん＝神戸市須磨区西落合6

「神戸空襲を記録する会」の人たちの長年の努力に深い敬意をささげた。碑の役割は、犠牲者を悼むことにとどまらない。再び同じ犠牲者を出さないよう、いまを生きる者が心に刻む場所であるべきだ。戦争はいつも正義の表裏を疑らし、もつともらう始まる。神戸空襲の時もそうだった。私は当時12歳で、焼夷弾の下を逃げ感つた。国民一人一人が何

#### 碑の賛同人・内橋克人さん



#### 戦争しないと心に刻む場に

に巻き込まれただけか、気付いた時にはもう遅かった。いま、集団的自衛権などが議論される中、まさに歴史の岐路に立っている。あるいは次の戦争への道が、既に掃き清められようとしているかもしれない。高い歴史認識と鋭い洞察力を持つ。そのための第一歩が、この8月15日、神戸から始まることだ。

※拡大してお使いください

? 学びポイント 「神戸空襲」について、本を読んだり、大人の人に話を聞いて、調べてみましょう。もし、身近に、当時のことを知っている人がいたら、話を聞いてみましょう。